

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。「進め！電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。執筆活動の他、京造形芸術大学副学長、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。「くまモン」の生みの親でもある。



1月24日プレゼンテーションにて

LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。神奈川県選出の匠、鎌倉彫作家の三橋鎌幽さんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

3年目となった今回は、全国47都道府県から計50名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギャラリー高輪で行われたキットオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの制作に取り組んだ。

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援

1月24日、東京ミッドタウン日比谷で行われた発表会では、国内外の百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイナー・メー

また当日は、2019年の新たな取り組みとして、全国の匠と、世界的クリエイター（コラボレーター）が、新たなプロダクトを制作するコラボレーションプログラムを発表。コラボレーターである隈研吾氏（建築家）、廣川玉枝氏（SOMARTAクリエイティブデザイナー）、森永邦彦氏（ANNEALAGE/代表取締役社長・デザイナー）、辰野しずか氏（クリエイティブディレクター/プロダクトデザイナー）が登場し、想いを語った。2019年秋頃には、完成したコラボ作品、過去のプロジェクトから生まれた匠たちの作品を披露するイベントを京都の地で開催することを合わせて発表。プロジェクトも一歩一歩進化している。



プレゼンを行う三橋さん

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」（主催：LEXUS）は、日本各地で地域の独自性や技術を生かして、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

800年続く鎌倉彫の技に
新たな形を加え、受け継いでいく

三橋 鎌幽 神奈川／鎌倉彫作家(彫刻+漆芸)

従来イメージを変える
新たな可能性を追求

鎌倉時代に禅宗寺院で使われる仏具や茶道具として生まれた「鎌倉彫」。その800年の伝統を受け継ぐのが神奈川の匠、三橋さんだ。自身も鎌倉時代から続く仏師の血筋で、2010年には、鎌倉五山の第一位である建長寺管長吉田正道老師より「鎌幽」の号を拝名し、伝統の技の研鑽に努めてきた。

「これまで、一定数のファンに支えられてきました。しかし、もっと広く、いろいろな人に知ってもらいにはどうすればいいのか。また、地元の経済に少しでも貢献したい。そういう思いがあり、モノづくりを追求するレクサスと連携することが、新しい鎌倉彫の創造に繋がると期待しました」と、三橋さんはプロジェクトに参加した理由を振り返る。



作業場に掲げられた看板の様子

「神奈川県代表なので、生まれ育った鎌倉の自然をデザインに活かしたいと考えました。また、鎌倉彫はいくつもの工程が必要で、その中で指物師と協力することが多いのですが、今回は宮大工と協力することで、従来のイメージから飛び出した新しいものを作りたいと考えました」と、プロダクトのコンセプト



下川氏からアドバイスを受ける

トを説明する三橋さんが挑むのは、鎌倉彫のツールだ。6月のキットオフ・セッションでは下川氏から「新しいものをつくるときに、今持っている鎌倉彫の資産から離れすぎるといけない。鎌倉彫には『益』のイメージがある。トレイを乗せるとサイドテーブルになるツールなども面白い」などの具体的なアドバイスがあった。

「最初は椅子を考えていたのですが、キットオフ・セッションで、最初から背もたれがついた椅子は技術的に難しい面があるとのアドバイスをいただきました。その結果、サイドテーブルとしても使える、背もたれのないツールにチャレンジすることに決めました」（三橋さん）



作業場に近い由比ヶ浜の眺め

10月に行われたエリア・コンサルティングでは、木製のツールとトレイのプロトタイプが披露され、下川氏とプロダクトの方向性などについて、真剣な議論が重ねられた。

アドバイスを生かして製作されたプロトタイプは鎌倉彫のトレイをツールにセットすることでサイドテーブルとしても使用できるデザインを採用した。しかし、下川氏からは「ツールの木組みにもっと軽快感が欲しい。トレイとの一体感ももっと強調して」と伝統技術を活かしながら、同時にモダンさを演出した方が良いとアドバイスがあった。

トレイのデザインについても悩んでいた三橋さんは、「2色の漆を塗り重ねる根来塗の技法で、さらにいくつか試作品をつくります。エリア・コンサルティングで方向性が見えました」と打ち明ける。

型破りの発想で新しいジャンルを切り拓く



鎌倉の自然をデザインで表現

工の会社だ。「最終的には細部にまで宮大工の技術を活かすデザインにすることができました」（三橋さん）

今回のプロジェクトへの参加を通じて、「これまでも、アクセサリーや壁飾りなどにチャレンジしてきました。プロジェクトでいただいたアドバイスは、鎌倉彫を知らない人に向けて、どのようにアプローチしていくかを考えるとても良い機会になりました」と三橋さんはさまざまな気付きがあったと話す。

商談会では、立ち止まるバイヤーも数多くあり、百貨店などからいくつもの出品要請があったようだ。しかし三橋さんは「ただこれはプロトタイプ。海外に輸送するためにはもっと強度が必要なんです」と、世界展開を見据えた改良が必要だと意気込みを見せる。

神奈川の自然をデザインに取り入れ、伝統の技で作られたツールは、世界に向けてさらに進化を続け、新しい鎌倉彫の世界を大きく広げていくことが期待される。



神奈川の空と海を表したツール



視覚と手触りで創作する



内容で使い分ける道具が並べられている



三橋 鎌幽
神奈川／鎌倉彫作家(彫刻+漆芸)

鎌倉時代より続く仏師の血筋。1980年鎌倉生まれ。2010年に建長寺 管長 吉田正道老師より「鎌幽」の号を拝銘。禅宗寺院出入りの職方として、仏具・茶道具制作を中心とする。祖先が確立した「茶道具の鎌倉彫」を再興するなど、800年続く鎌倉彫の歴史を紐解く。ミラノサローネの出品やノバリの個展開催など、世界へ発信をする。国内では横浜高島屋の美術館で個展開催など多岐にわたって活躍中。

